

みなとや海辺の親しみ創出事業 事業報告書

団 体 名	自然環境定量評価研究会
事 業 名	曾根干潟の貴重種に会いに行こう！
事業の実施期間	平成28年 7月20日 ～ 平成29年 3月25日
事業の実施場所	北九州市小倉南区曾根新田地先の曾根干潟
参加人数	市民参加者14名，スタッフ4名
活動内容 ※別紙可	<p>本事業は、曾根干潟に生息している貴重な生物を保護・保全することを目的とするとともに、環境に関心がある市民や小中学生に底質・底生物調査を専門家と一緒に実施することにより、干潟環境の重要さと親しみを感じてもらうことを目的としている。この目的を達成するために以下の活動を行った。</p> <p>1) カブトガニやヤマトオサガニ、塩性植物のシバナなどの絶滅危惧種や貴重種の生存の有無や生息場所、および生息量を把握するために目視調査と底生物の生息環境に重要な要素と考えられる底質に関する現地調査を9月17日と10月1日、2日に行った。</p> <p>2) 小中学生とその保護者および一般市民14名に対して現地調査のやり方を体験してもらうとともに、貴重種等の個体数や大きさの計測してもらった。参加者募集には、北九州港ホームページ内の「海ナビ」を利用した。この活動を9月17日（参加者10名）と10月1日（参加者4名）の午前10時から12時に行った。</p>
活動の成果	<p>(活動に参加した市民や活動の対象となった市民にとっての成果)</p> <p>参加者の多くは干潟に入ったことがなかったため、泥の上を歩くことだけでも新鮮な体験であった。観察会を通じて、干潟の泥はヘドロではないこと、枯れ草に見えるヨシ原には今まで知らなかったたくさんの生物がいる豊かな環境であること、身近にカブトガニなどの希少種がいることを共有できた。</p> <p>(活動を実施した団体にとっての成果)</p> <p>曾根干潟での調査を継続実施したことにより、経年的な変化傾向を知ることができるデータを得た。底生物については、近年減少している二枚貝類等の生息量を把握するとともに、目視調査を行って曾根干潟に生息する貴重な生物の種類を把握した。またカブトガニの幼生個体数を調査した。底質調査では、干潟生物の生息に影響する底泥中の硫化水素について、近年開発された手法を用いて測定した。</p>
活動終了に当たっての反省点	<p>現地調査では、調査開始直前に天候が悪化し、予定を変更したことがあった。干潟の調査は大潮期に実施する必要があるため日程が限られるが、今後も天候判断を確実に行う必要がある。</p> <p>観察会においては、2回目の参加者が4名と定員以下のため、その告知方法に課題があった。今回は曾根干潟近隣の区役所、その他の行政機関を中心にチラシを配布し、当団体HPや「海ナビ」、「自然ネットメールマガジン」でも告知したものの、より効果的な告知の方法について検討の余地がある。</p>

活動写真



観察会一日目 ヨシ原での生物観察



観察会一日目 干潟生物の採取



観察会一日目 干潟生物の採取



観察会一日目 撤収状況



観察会二日目 砂質域の生物観察



観察会二日目 採取した生物の観察



底生生物調査 カプトガニ幼生の大きさ計測中



底質調査 硫化水素の現地測定